

鉄鋼標準化センター活動報告

1. トピックス

(1) 国際標準化関係

1. ISO/TC17(Steel)議長に青木氏が再任
TC17のMember bodiesの支持を得て中央事務局へ推薦していた表記の件につきISO Technical Boardの承認を得て標準化センター青木氏が再任された。任期は1993年～1995年。
2. 第2回ISO/TC67/SC5国際会議(神戸)結果
10月19～23日、神戸国際会議場にて開催(ワーキング・グループ会議を含む)。油井管のISO規格の最終案(API Spec 5CTをベースとする)を承認。1年4ヶ月の短期間にて完成させた。
さらに、耐食用油井管及び油井管継手性能試験を新たに引き上げることを決定。
3. ISO/TC17/EC国際会議準備開始
来年5～6月に予定している表記の会議の準備を開始。

(2) 国内標準化関係

1. 鉄鋼標準化事業長期計画立案検討開始。
鉄鋼標準化センター運営委員会で承認された表記に関する基本方針を受けて、10月23日運営分科会を開催。各分科会及び標準化センターで具体的計画策定に着手する。結果は来年1月迄にまとめる予定。
2. JIS見直し調査進捗(鋼材関係)
平成5年度に見直し時期の来る鋼材規格39件について調査を進めている。その第1回目の三者構成委員会の審議は11月10日。
3. 通商産業大臣表彰功労者
工業標準化の振興と普及を促進するため、JISCの委員で、永年にわたり規格の制定普及に関与し功績のあった者に対し大臣表彰を行い、その功に報いている。今年は33名中鉄鋼は次の2名である。
○宮原和男 日立金属・安来工場・分析課長
○大坪孝至 日本鉄鋼連盟・標準室長
4. 標準化全国大会
これからの標準化一ゆとりと豊かさを求めて一を大会テーマに10月20～22日の3日間にわたり24件の研究発表と4件の特別講演があり、延べ2,300名(前年100名増：主催者発表)の参加を得、盛会であった。
5. JISC鉄鋼部会圧力容器用鋼材専門委員会
10月16日開催、高温圧力容器用高強度Cr-Mo鋼鋼板、高温圧力容器用高強度Cr-Mo鋼鍛鋼品(以上新規)、圧力容器用鋼板の超音波探傷検査方法(改正)が審議された。

2. 標準化活動状況 委員会・分科会活動

(1) 標準化委員会運営分科会

10月23日第4回目の会議を開催。鉄鋼標準化センター運営委員会で承認された標準化事業中長期の基本方針に基づいて具体的な計画策定

の検討の場を決め、来年1月迄に策定。

(2) 標準化委員会/JP1分科会

先月実施の第1回分科会結果に基づいて、JIS見直し調査の作業(2件)、再生鋼材(JIS G3111)の生産状況調査を実施。又、前原主査の方でJP1分科会での活動計画を詳細検討中。

(3) 標準化委員会/JP3分科会

10月24日第2回目の会議を開催。JIS見直し調査案件1件(JIS G3133：ほうろう用脱炭鋼板及び鋼帯)を詳細討議。

(4) 標準化委員会/JP4分科会

10月24日第2回目の会議を開催。JIS見直し調査案件2件の他次回国際会議で議題となるテーマについて討議。又、10月26日～28日に米国で開催されるステンレス鋼の成分規定の調和に関するASTMとEC1SSのJoint meetingに日本からも参画(日本冶金2名、日本金属工業1名)することが報告。

(5) 標準化委員会/JP5分科会

10月2日第1回目のキックオフミーティングを開催。分科会の構造としてワーキング・グループを3つ(WG1線材関係、WG2鉄筋関係、WG3PC鋼棒・鋼線関係)持つ事およびそれぞれの規格分担が決定。宮本主査の運営方針も説明され承認された。

(6) 標準化委員会/JP6分科会

10月13日第2回分科会を開催。来年見直し時期の来るJIS27規格についてISO規格との整合性チェックを詳細に行った。また整合性をもたすための手段についても討議した。

(7) 標準化委員会/JE1分科会

10月6日第2回目の会議開催。11月始めにベルリンで開催されるISO/TC17/SC20国際会議対応としてISO 377-1(機械試験の為のサンプルおよび試験片採取)の改訂案に対するコメントを詳細討議。

(8) 標準化委員会/JE2分科会

10月28日第2回分科会を開催。TC164/SC1、SC3国際会議(パリ)の出席報告—ISO376(単軸試験機の校正に使用する荷重性能試験装置の検定)の改正案、各種硬さ試験、規格案の審議結果—、及びJIS改正6規格の追認、—G0567(高温引張)、Z2241(引張)、Z2242(衝撃)、Z2247(エリクセン)、Z2271(クリープ)、Z2272(クリープ破断)—さらに、JIS原案作成のためのガイドライン(案)等を討議。

(9) 標準化委員会/JE3分科会

10月14日第1回分科会を開催。議事としてISO/TC17/SC7国際会議(パリ)へのISO4967(鋼の非金属介在物の測定法)とISO642(鋼の一端焼入れによる焼入性試験)の2件の改正案についての日本コメントを討議した。

(10) 標準化委員会/JE4分科会

(1)第107回SC1分科会 第47回SC1諮問部会

(JE4準備会)開催(10月29日)

①日本がConvenerを担当している

WG29(Co-原子吸光法)：新日鉄 小野氏、WG34(B-吸光光度法)：コベルコ科研 河村氏のWDを審議。

②ISO377-2サンプリング及び原子吸光法、吸光光度法、プラズマの各ガイドラインに関する日本コメントを審議。

(11) 標準化委員会/JE5分科会

10月12日第2回分科会を開催。G0801(圧力容器用鋼板の超音波探傷検査方法)、Z3060(鋼溶接部の超音波探傷)の改正案および厚板UST規格関連の今後の対応について討議した。

3. TC17幹事国業務

(1) 国際規格発行に関する進捗状況

1)DIS投票結果及び各国コメントがSCへ回されたもの：2件

DIS 9330-4(SC19) 高温用SAW鋼管 (10-20)

DIS 9330-5(SC19) 低温用SAW鋼管 (10-20)

2)DIS投票が開始されたもの：1件

DIS 10697-2(SC1) 全Ca-原子吸光法 (10-29)

3)DISが登録されたもの：2件

DIS 10697-2(SC1) 全Caの原子吸光法 (09-29)

DIS 10698 (SC1) Sbの無炭原子吸光法 (09-29)

(2) ISO中央事務局関連

1)Memento 1993年版について

中央事務局より表記に関連してTC17内のSC、WGの変更・新設に関する情報提供要請あり→対応中。

2)TC、SCの会議開催予定の情報提供

中央事務局より来年度の表記の情報提供の要請あり。×切は12月末。

(3) TC17全般

1)ISO/TC17議長に青木氏が再任

TC17の会員の支持を得て中央事務局へ推薦していた表記の件につきISO Technical Boardの承認を得て青木氏が再任。任期は1993年～1995年。

2)第27回TC諮問部会

10月9日会議開催。議事内容は、第17回TC17総会決議事項のフォロー状況報告および第8回ISO/TC17/EC国際会議議題についての討議

EC会議の議題案は次の通り

- 1) Review of strategic policy statement
- 2) Layout of ISO product standards
- 3) Productivity of ISO standards
- 4) Managerial structure of TC17

5) Supplementary document to ISO 9000 series

但し5)のテーマは鉄連内の本件に関わるプロジェクトの結論に従って議題にするか否か決定。

3) ISO/TC17/EC国際会議準備

上記2-1)～4)に関する資料作成開始。資料準備後12月上旬～中旬にヨーロッパ主要国を訪問・協議予定。

4. TC17/SC1幹事国業務(関連業務を含む)

(1) 承認段階(Stage 4) :

1) DIS 10702 (N-蒸留滴定法) ; DISが承認された(09-12)

賛成13、反対1 (Sweden)

(2) 委員会段階(Stage 3) :

1) CD 10698 (Sb-無炎原子吸光法) ; DIS登録完了(09-29)

2) CD 10700 (Mn-原子吸光法) ; DIS登録中。仏訳中。

3) CD 10278 (Mn-プラズマ) : コンビナーが最終CD作成中。

4) CD 10697-2 (全Ca-原子吸光法) ; DIS投票開始(10-29)。締切1993-04-29

5) CD 10719 (GC-燃焼赤外線吸収法) ; コンビナーが最終CD作成中。

6) CD 10701 (S-吸光光度法) ; DIS登録中。仏訳中。

7) CD 10720 (N-融解熱伝導率法) ; 再実験準備中。

8) CD 439 (Si-重量法) ; 最終CD作成中。

9) CD 11652 (Co-原子吸光法) ; 再実

験準備中。

10) CD 11653 (Co-電位差滴定法) ; 再実験準備中。

11) CD 4941 (Mo-吸光光度法) ; コンビナーが最終CD作成中。

(3) 作成段階(Stage 1/2) : WG32～36及びad hoc 活動のため参加試験所募集締切(10-31)

(4) その他

1) ISO/TC47/SC1/WG1&WG2のconvenerとして、①原子吸光法 ②無炎原子吸光法 ③プラズマの機器取扱いガイドライン規格化の為にWDをまとめメンバーに回付。(10-07)。回答期限：1992-11-30

2) ISO 377-2「分析試料の採取と調整」WDに対するコメント締切(10-31)。

3) SC1 Secretariatがロンドン会議の議決事項のフォローアップなどのため、英国、スペイン及び米国へ出張(10月3日～17日)

5. TC67/SC5幹事国業務

(1) 第2回TC67/SC5国際会議(神戸)を開催。成功裡に終了。

1) 出席国 8カ国(TC67/SC5 Pメンバー 15カ国) 中国、フランス、ドイツ、イタリア、日本、ルーマニア、英国、米国 出席者合計25名(議長、事務局を含む)

2) 日程

TC67/SC5/WG1 10月19日～20日

TC67/SC5 10月21日～23日

3) 場所

神戸国際会議場

4) 会議結果の概要

① API Spec 5CT(油井管)のISO規格最終案のISO中央事務局への提出を決定

② CRA(耐食性合金)油井管のワーキング・グループ設立(WG2)

③ 油井管継手性能試験のワーキング・グループ設立(WG3)

④ 次回TC67/SC5会議予定

(1993年9月20日～21日 デュッセルドルフ)なお、会期中に住金と歌山製鉄所 シームレス鋼管工場の見学と Welcoming receptionを実施した。

(2) 第12回ISO/TC67総会(ロンドン)

10月1日～2日 日本から3名参加した。

(合計13カ国51名参加)

この中でTC67/SC5に関連のある決議は下記の通り。

① ISO/TC67はISO9000シリーズのQA規定案にとり入れない。

② ロシアからアルミ合金ドリルパイプをISO/TC67の適当なSCで取り扱ってほしいとの要望があり、まずロシアが規格原案を作成する。

③ オランダからの提案にて、ユーザー及びメーカーよりの異なった要求を考慮して規格原案にて少なくとも2レベル以上の品質水準を具体化させる。

これらは第2回TC/SC5国際会議(神戸)においても紹介された。